

AMR 執筆マニュアル (2003 年 9 月)

1. タイトル Title

タイトルとサブタイトルは明確で簡潔にまとめる。和文サブタイトルの前後には、全角ダッシュ (—) をつける。英文のサブタイトルは全角コロン (:) でタイトルと区切る。

2. 要約 Abstract

和文ならば 4 行程度、英文ならば 120 ワードがめやす。要約の中での引用はイニシャルを含んだ姓と出版年で表記する。たとえば B. A. Mellers (2000) と表記する。ただし本文中ではイニシャルを含まず Mellers (2000) と表記するので注意すること。また英文の場合には、形式的な文句は省いて能動態で表記する。たとえば “In this paper, it is concluded that. . .” などとは書かずに、“This paper concludes that. . .” と書く。ただし能動態の主語に I や We は用いない。

3. キーワード Keywords

3 ワード。英文の場合、a、an、the はつけず、固有名詞等以外は、小文字表記。

4. 著者氏名 Author name ・ 所属 affiliation ・ E-mail

姓名、名姓の順はどちらでもかまわない。ただし英文の場合には、著者名は first name、middle initial(s)、FAMILY NAME (family name はすべて大文字) を記載する。

5. 図表 Illustrations

図表にはアラビア数字のナンバーとタイトルを、中央揃えにしてつける。たとえば、

図 1 自動車産業の位置付け

Figure 1. Photomicrograph of Part of the CAI Cell Field from the Control Rat

注や出所は、図の下に「注」「note:」、「出所」「source:」として左寄せで書く。

本文中で図表にふれるときは「図 1」「Figure 1」と書く。「次図」「above figure」「以下の図」「below figure」という書き方はしない。表の縦罫は基本的にさける。

6. 表記の統一

- 句読点は「。」「、」。本文中の英数字は半角英数字フォント。記号は原則的に全角和文フォントを用いる。
- 名詞、動詞以外にはあまり漢字を多用しない。たとえば、「ありえる」「ありえない」「したがって」「せざるをえない」「もとづいて」などはひらがな表記にする。
- 数詞の表記は「ひとつ」「二つ」「三つ」…、「第一」「第二」「第三」…とする。
- 小数点前の 0 を表記する (0.23cm, 0.48s, $r = -0.43$, $p < 0.05$)。
- 英語として辞書の “main entry” に記載されるようなラテン語源の省略語、具体的には、e.g., i.e., cf., etc., et al. はイタリックにしない。また、省略語は原則的に本文中で用いない。本文中の括弧書きの中でのみ用いる。
- Spelling (つづり) は *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary* を標準とする。
<http://www.m-w.com/home.htm>

参考文献例 Reference List Examples

邦語文献・外国語文献ともに、第1著者の姓をアルファベット順に並べる。

同一著者の場合は、出版年の早いものが上にくる。

同一著者、同一出版年の場合は、出版年に英小文字 a、b、c…をつけて区別する。

詳細は *Publication manual of the American Psychological Association*. (5th ed.), pp. 215-281 参照。

1. 論文・著者1名

高橋伸夫 (1998) 「組織ルーチンと組織内エコロジー」『組織科学』 32(2), 54-77.

著者の姓と名のあいだにスペースやカンマを入れないが、姓と名の区別のはっきりしない場合は半角スペースを入れる。

雑誌の volume ナンバーはイタリックにする。

Mellers, B. A. (2000). Choice and the relative pleasure of consequences. *Psychological Bulletin*, 126, 910-924.

著者のファーストネームはイニシャルのみ。

論文タイトルは第一語だけ頭文字を大文字にする。また、引用記号 (“ ”) でくくらない。

雑誌名と volume ナンバーをイタリックにする。

2. 論文・著者2-6名

馬場靖憲, 渋谷真人 (2000) 「東京ゲームクラスター：形成要因の総合的考察」『研究・技術計画』 15(1), 33-47.

共著の場合は、著者名をカンマ (,) で区切る。

Klimoski, R., & Palmer, S. (1993). The ADA and the hiring process in organizations. *Consulting Psychology Journal: Practice and Research*, 45(2), 10-36.

Saywitz, K. J., Mannarino, A. P., Berliner, L., & Cohen, J. A. (2000). Treatment for sexually abused children and adolescents. *American Psychologist*, 55, 1040-1049.

英文の場合、第2著者以降も、「姓、カンマ (,)、名前のイニシャル」の順。

3. 論文・著者7名以上

Wolchik, S. A., West, S. G., Sander, I. N., Tein, J., Coatsworth, D., Lengua, L., et al. (2000). An experimental evaluation of theory-based mother-child programs for children of divorce. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 68, 843-856.

7人目以降は「他/et al.」として省略。

「et、スペース、al、ピリオド (.)」。et al. はイタリックにしない。

4. 論文・近刊

Zuckerman, M., & Kieffer, S. C. (in press). Race differences in face-ism: Does facial prominence imply dominance? *Journal of Personality and Social Psychology*.

出版年を「近刊/in press」とする。

5. 書籍

國領二郎 (1999)『オープン・アーキテクチャ戦略—ネットワーク時代の協働モデル』ダイヤモンド社.

Beck, C. A. J., & Sales, B. D. (2001). *Family mediation: Facts, myths, and future prospects*. Washington, DC: American Psychological Association.

和書の場合、出版社の所在地は省略。

洋書の場合、書籍の出版元は、Books, Press 以外の The や Publishers 等をすべて除いた簡潔な形で表記する。

また、所在は、アメリカは「都市名、カンマ (,)、州名、コロソ (:)', アメリカ以外は、「都市名、カンマ (,)、国名、コロソ (:)'」を書く。

ただし、New York、San Francisco、London などの出版で著名な都市は州名や国名を省略する (APA マニュアル p. 217 参照)。

6. 書籍・編著

青木昌彦, 寺西重郎 編著 (2000)『転換期の東アジアと日本企業』東洋経済新報社.

Gibbs, J. T., & Huang, L. N. (Eds.). (1991). *Children of color: Psychological interventions with minority youth*. San Francisco: Jossey-Bass.

7. 書籍・監修

宮垣 元, 佐々木裕一 (1998)『シェアウェア』(金子郁容 監修). NTT 出版.

監修者はタイトルにつづけてカッコでくくる。

8. 書籍・第3版

Mitchell, T. R., & Larson, J. R., Jr. (1987). *People in organizations: An introduction to organizational behavior* (3rd ed.). New York: McGraw-Hill.

著者名 (出版年) 『書籍タイトル』 (第3版). 出版元.

9. 書籍・改訂版

Rosenthal, R. (1987). *Meta-analytic procedures for social research* (Rev. ed.). Newbury Park, CA: Sage.

著者名 (出版年) 『書籍タイトル』 (改定版). 出版元.

10. 書籍に収録された論文

柳川範之, 桑山 上 (2000)「家庭用ビデオゲーム産業の経済分析」青木昌彦, 寺西重郎 編著『転換期の東アジアと日本企業』10章, 東洋経済新報社.

所収ページ (pp. 10-15) あるいは、章を書く。

Massaro, D. (1992). Broadening the domain of the fuzzy logical model of perception. In H. L. Pick Jr., P. van den Broek, & D. C. Knill (Eds.), *Cognition: Conceptual and methodological issues* (pp. 51-84). Washington, DC: American Psychological Association.

所収ページ (pp. 51-84) を書く。

“In” 以下の書籍の著者名は「名、姓」の順。

11. ワーキング・ペーパー

高橋伸夫, 松本 渉 (2002) 「NPO の団体評価軸—サポート・センターを例として」 (Discussion Paper Series CIRJE-J-68). 東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター.

Christensen, C. M., Suarez, F. F., & Utterback, J. M. (1996). *Strategies for survival in fast-changing industries*. (Working Paper, July 16, 97-009). Cambridge, MA: Harvard Business School.

12. 学位論文 Dissertation

宮崎正也 (1998) 「パソコン用プリンタ産業における競争戦略—複数技術間の相互作用による産業発展パターン」 東京大学大学院経済学研究科修士論文.

Wifley, D. E. (1989). *Interpersonal analyses of bulimia: Normal-weight and obese*. Unpublished doctoral dissertation. University of Missouri, Columbia.

大学等の名称に州の名前が含まれる場合は、都市名の後の州名は省略。

13. 紀要

高橋伸夫 (2001) 「学習曲線の基礎」 『経済学論集』 66(4), 2-23. 東京大学経済学会.

14. 学会等での発表 (未出版) Paper presented at meeting (unpublished)

Lanktree, C., & Briere, J. (1991, January). *Early data on the Trauma Symptom Checklist for Children (TSC-C)*. Paper presented at the meeting of the American Professional Society on the Abuse of Children, San Diego, CA.

15. 論文・インターネット上 (Internet-only) の雑誌

藤本隆宏 (2002) 「新製品開発組織と競争力—我田引水の文献サーベイを中心に」 『赤門マネジメント・レビュー』 1(1), 1-32. 2002年4月25日検索, <http://www.gbrj.jp>

VandenBos, G., Knapp, S., & Doe, J. (2001). Role of reference elements in the selection of resources by psychology undergraduates. *Journal of Bibliographic Research*, 5, 117-123. Retrieved October 12, 2001, from <http://jbr.org/articles.html>

ダウンロードの日付と正確な url を書く。

ページに該当するものがない場合は記載不要。

16. 邦訳文献

Gupta, R., & Landry, J. (2000). Profiting from open source. *Harvard Business Review*, (2000, September-October), 22. 邦訳, R・グプタ (2000) 「オープン・ソースのメリットについて話そう」 『Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー』 (2000年12月), 16-19.

Clark, K. B., & Fujimoto, T. (1991). *Product development performance*. Boston: Harvard Business School Press. 邦訳, 藤本隆宏, キム・B・クラーク (1993) 『製品開発力』 田村明比古 訳. ダイアモンド社.

外国語文献・邦訳を併記。

外国人名をカタカナ表記するときは、イニシャルと姓を半角の中間「・」で区切る。

17. 英語以外の外国語文献

Takahashi, N. (1993). *Nurumayuteki keiei no kenkyu* [A study of lukewarm management]. Tokyo: Toyokeizai. (In Japanese)

Ising, M. (2000). Intensitätsabhängigkeit evozierter Potenzial im EEG: Sind impulsive Personen Augmenter oder Reducer? [Intensity dependence in event-related EEG potentials: Are impulsive individuals augmenters or reducers?]. *Zeitschrift für Differentielle und Diagnostische Psychologie*, 21, 208-217.

雑誌名に英訳がある場合、原語誌名につづけてブラケットの中に入れて記載してもよい。

18. 英語以外の文献の英訳（英訳を引用にを使った場合）

Stutte, H. (1972). Transcultural child psychiatry. *Acta Paedopsychiatrica*, 38(9), 229-231.

Laplace, P. S. (1951). *A philosophical essay on probabilities* (F. W. Truscott & F. L. Emory, Trans.). New York: Dover. (Original work published 1814)

19. 著者名（組織名）のない書籍（辞書、社史などの資料等）

Merriam-Webster's collegiate dictionary (10th ed.). (1993). Springfield, MA: Merriam-Webster.

『書籍タイトル』（出版年）出版元。

書名を著者名の位置におき、参考文献リスト中では The や A をのぞいた最初の単語で並べる。

本文中の引用は、書名を（必要ならば短縮して）著者名と同じように扱って表記する。

(Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 1993).

20. 私信（e-mail など）

立本博文（高橋伸夫宛私信 2002 年 7 月 23 日）

（立本博文，高橋伸夫宛私信 2002 年 7 月 23 日）

T. K. Lutes (personal communication, April 18, 2001)

(V. -G. Nguyen, personal communication, September 28, 1998)

参考文献中には含めず、本文引用箇所以下のように表記する。

本文中引用例 Reference Citation in Text

Publication manual of the American Psychological Association. (5th ed.), pp. 207-214

1. 著者 1 名
 - a. 高橋 (1998) によると
 - b. (高橋, 1998)
 - c. Walker (2000) compared reaction times
 - d. In a recent study of reaction times (Walker, 2000)

2. 著者 2 名
 - a. 藤本・武石 (1984) によると
 - b. (藤本, 武石, 1984)
和文では、共著の場合、本文中では中点「・」、括弧の中ではカンマ (,)、で区切る。
 - c. Nightlinger and Littlewood (1993) demonstrated
 - d. as has been shown (Jöreskog & Sörbom, 1989)
英文では、本文中は“&”ではなく“and”と表記することに注意

3. 著者 3 名以上
 - a. 新宅・許斐・柴田 (2000) によると (1 回目の引用)
 - b. 新宅 他 (2000) によると (2 回目以降)
 - c. 新宅 他によると (同じ段落ですでに a、b の形で引用されているとき)
 - d. Wasserstein, Zappulla, Rosen, Gerstman, and Rock (1994) found (1 回目の引用)
 - e. Wasserstein et al. (1994) found (2 回目以降)
 - f. Wasserstein et al. found (同じ段落ですでに a、b の形で引用されているとき)

4. 同名の著者
 - a. R. D. Luce (1959) and P. A. Luce (1986) also found
 - b. J. M. Goldberg and Neff (1961) and M. E. Goldberg and Wurtz (1972) studied
著者の姓名ともに書く。

5. 2 つ以上の引用
 - a. (高橋, 1989a, 1989b)
 - b. (相田, 大塚, 1997; 平林, 赤尾, 1996; 生稲, 新宅, 1997; 矢田, 1996; 柳川, 桑山, 2000)
 - c. Past research (Edeline & Weinberg, 1991, 1993)
 - d. Past research (Gogel, 1984, 1990, in press)
 - e. Several studies (Balda, 1980; Kamil, 1988; Pepperberg & Funk, 1990)
 - f. (Minor, 2001; see also Adams, 1999; Storandt, 1997)
カッコ内の複数の文献は、第 1 著者の姓でアルファベット順に並べる。

6. ページ数・章を表記

- a. ヒューズ (1969, p. 34)
- b. (ヒューズ, 1969, pp. 50-52)
- c. (ヒューズ, 1969, pp. 49-50, 52-62)
- d. Cheek and Buss (1981, p. 332)
- e. (Cheek & Buss, 1981, pp. 332-334)
- f. Shimamura (1989, chap. 3)
- g. (Wayner, 2000, p. 64; 邦訳, p. 104)